

令和3年度 第2回 地域協働学校運営協議会のまとめ

令和4年2月22日

学校運営協議会委員 (R3.7.1～R4.6.30)

会長	横田 徹	(御野学区連合町内会会長)
副会長	豊福 範章	(御野小学校PTA会長)
委員	大和田 黎子	(御野学区社会福祉協議会会長)
委員	金谷 恵子	(主任児童委員)
委員	前田 多嘉子	(御野学区交通安全母の会会長)
委員	安達 照子	(御野スポーツ少年団代表) ※都合により欠席
委員	難波 真理	(御野小学校校長)
委員	遠藤 正和	(御野小学校教頭)
委員	平松 令子	(御野小学校教務主任)

Ⅰ 令和3年度の取組

(1) 全国学力・学習状況調査の結果について

(2) 岡山市教育に関する総合調査の結果と分析について

- ・子どものゲームに対する熱量はものすごい。その子どもたちに、ゲームの使用時間などのルールを守らせるには、親にも相当の覚悟とエネルギーが必要。
- ・親が遅くまで働く家庭が増え、その間子どもはゲームをして待つ。親は、帰宅しても夕食の準備、子どもの宿題を見るなど本当に忙しい。その中でゲームの時間もコントロール…子育ては本当に大変だ。
- ・家庭のルールを守らせようとしても、子どもに「どうしてうちは30分なの？友達はもっと長いよ」と言われると、説得力のある回答がなかなかできない。
- ・子どもにゲーム機を持たせると、あっという間に親も知らない使い方をマスターする。自分でインターネット回線につなげ、小学生同士で夜遅くまで遊ぶことも。課題が多い。
- ・「本を読んだらゲームができる」という家庭のルールをつくった。本末転倒かもしれないが、少しでも活字に慣れさせようと苦肉の策だ。
- ・一方でGIGAスクール構想に向けタブレットを活用させながら、もう一方では「紙」の読書を推進する…子供に対して説得力のある説明が必要。
- ・コロナ禍で、地域の行事や野外活動が軒並み中止になった。アンケートで肯定的回答が少なくても仕方ない。
- ・丁寧に会釈をしたり、「毎日ありがとうございます」と声をかけたりしてくれる子が本当に増えた。学校の指導が地域に広がっている。
- ・ごみの収集場所でネットを上げて地域の方を手伝う小学生の姿も。ごみの収集日が、行事が減った地域の貴重なふれあいの場になっている。
- ・コロナ禍でも工夫して学校行事を実施したことに感謝している。子どもたちの成長にその体験は必ず好影響を与え、そこで学んだことはいつまでも心に残っている。
- ・総合調査の質問が、「あるべき子どもの姿・親の姿」に誘導的な内容のようにも読める。
- ・子どもたちの学習や生活の様子を細かく分析した本当によいデータだ。保護者への啓発にも使えるのではないか。